

越後能生及び近傍の海藻ノート (4)

齋藤 讓*

Y. SAITO: Notes on Some Marine Algae from
Nou, in Echigo, and Vicinity (4)

この報告には能生と近傍の海藻フロラに追加すべき藍藻1種、緑藻3種、褐藻2種及び紅藻6種と、前に発表した目録(1956)に文献(岡村, 1936)にもとずいて掲載したもので、その後採集できた紅藻1種、及び第1報(1958)に種名が明らかでないまま掲げて図を示しておいたもので、その後明らかになった褐藻1種を記録し、あわせてそれらの種の知見についてのべる。

御指導と本稿の校閲をいただいた時田郇先生に深く感謝するとともに、*Dictyota spathulata* の同定をいただいた山田幸男先生、*Cladophora*, *Rhodochorton* 等の種の同定その他について御教示を与えられた新潟大学の野田光蔵先生に御礼を申し上げる。

Brachytrichia quoyi (AG.) BORN. et FLAH. アイミドリ 中村, 1925, p. 228; 岡村, 1936, p. 911, Fig. 427.

産地: 百川(齋藤, 7月, 9月, 1959)

平均水面附近からそれ以深0.5 m くらいまでの岩上に生ずる。当地産の標本は球状囊小さく、径1 cm 以内である。中村(l. c.)は能生から北東約60 km にある勝見、青海川を本種の産地として記録している。

Cladophora japonica YAMADA (Fig. 1) オオシオグサ 岡村, 1936, p. 52, Fig. 26; 東, 1936, p. 1; 大島, 1950, p. 9, Fig. 7.

産地: 能生(齋藤, 8月, 1958)

平均水面下0.5~1.5 m くらいの岩上、サンゴモ類の群落のなかに点在する。水中にあるときは大島(l. c.)ものべているように青白く光つてみえる。当地産のものは小型で体長はみな10 cm 以内、採集した9個体の平均体長は(7.3±1.3) cm であつた。本邦日本海沿岸で本種が採集された今日までの記録は、筆者の知るかぎりでは能生以西であるが、筆者は1954年7月に佐渡の北西岸にある戸地(とち)でも1個体を採集している。

* 能生水産高等学校

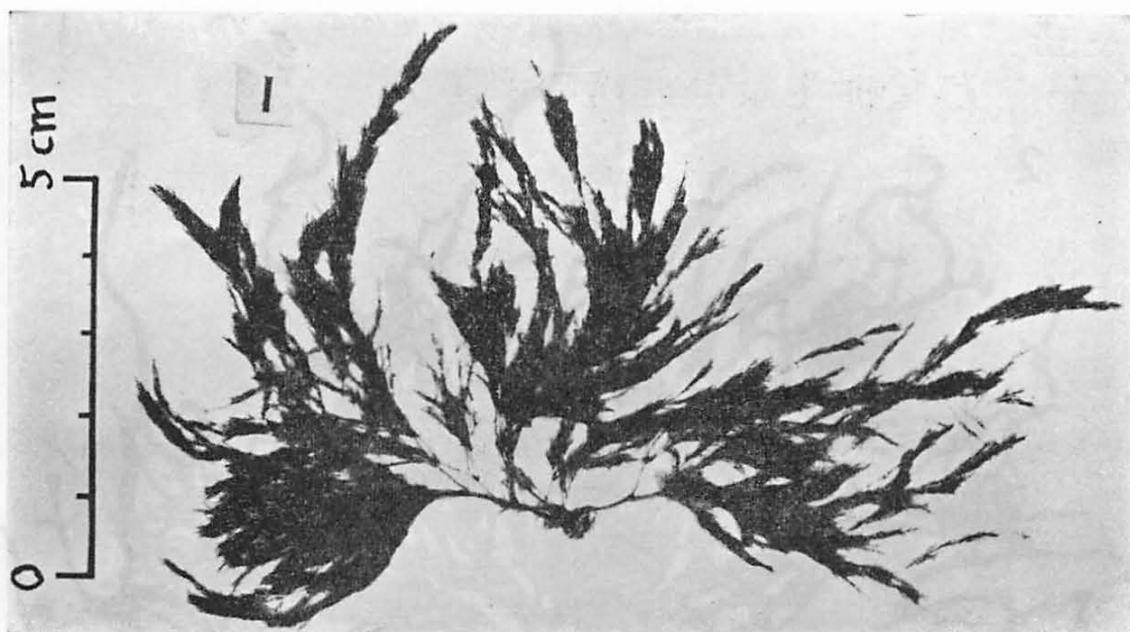


Fig. 1. *Cladophora japonica* YAMADA, 能生産

Cladophora densa HARVEY アサミドリシオグサ 岡村, 1936, p. 59, Fig. 30.

産地： 能生 (齋藤, 6月, 7月, 1955)

質ややかたく、枝が大体同じ高さに成長し、全体が半球状になつて生ずるので、はじめ *C. pellucida* (HUDS.) KÜTZ. と考えたが疑点もあつたので保留していたものである。その後野田先生の御教示を得て、ここに本種に同定する。高さは約 12 cm。

Cladophora utriculosa KÜTZ. ヒメシオグサ 中村, 1925, p. 224; 岡村, 1936, p. 57, Fig. 27; 東, 1936, p. 1; TAKAMATSU, 1936, p. 26; 大島, 1950, p. 10, Fig. 8.

産地： 百川 (齋藤, 7月, 1959)

Petrospongium rugosum (OKAM.) SETCH. et GARDN. シワノカワ 岡村, 1936, p. 186, Fig. 96; TAKAMATSU, 1939, p. 34. *Cylindrocarpus rugosa* OKAM. として, 中村, 1925, p. 220.

産地： 郷津 (齋藤, 5月, 1960)

Tinocladia crassa (SUR.) KYLIN (Fig. 2) フトモズク INAGAKI, 1958, p. 143, Figs. 49, 50, Pl. 3, Fig. 1. *Mesogloia crassa* SUR. として, 中村, 1925, p. 220. *Castagnea crassa* (SUR.) KUCK. として, 東, 1936, p. 3. *Eudesme crassa* (SUR.) OKAM. として, 岡村, 1936, p. 193, Fig. 100; 大島, 1950, p. 30,

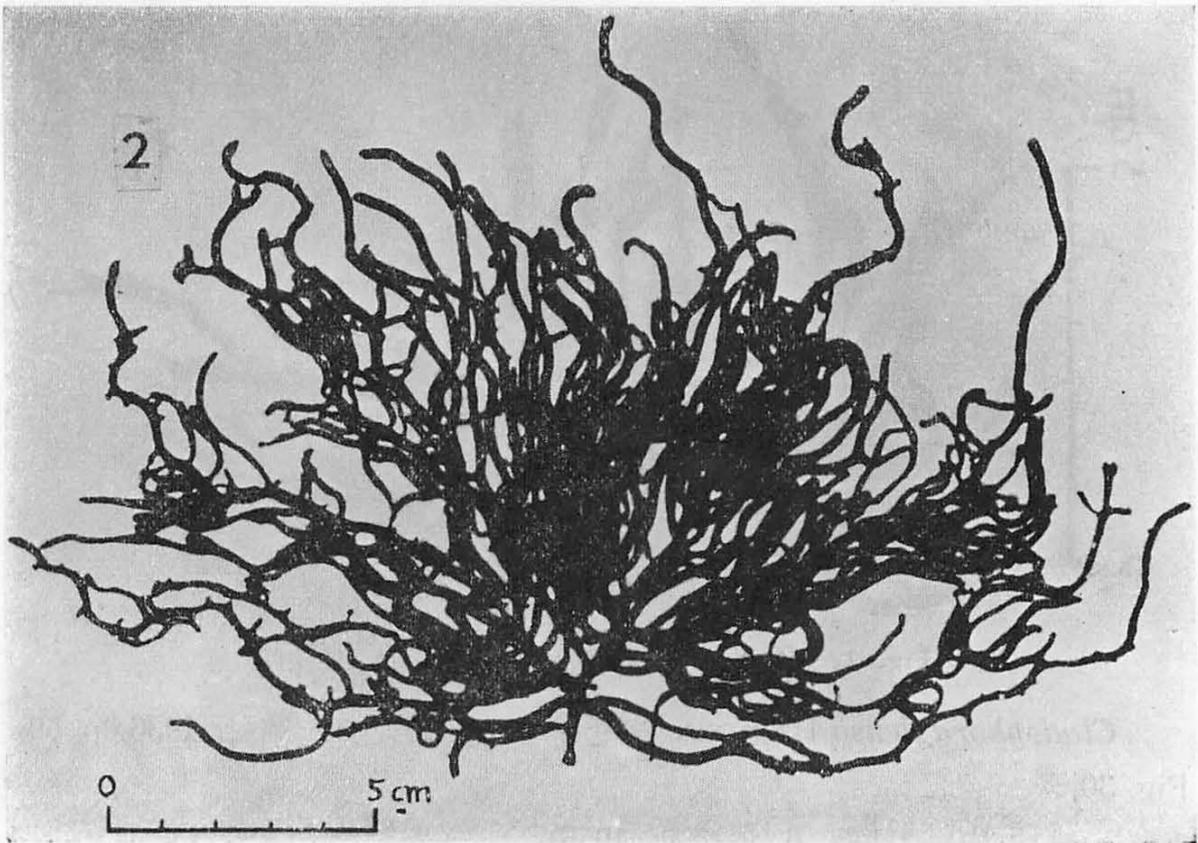


Fig. 2. *Tinocladia crassa* (SUR.) KYLIN, 小泊産.

Fig. 26.

産地： 小泊（斎藤，6月，1956）

波の静かな浅い磯の平均水面下 0.5 m くらいの岩に生ずる。採集した個体は小さく，体長は 20 cm 以下である。中村 (l. c.) は佐渡の北東約 90 km にある粟島を本種の産地として記録しているが，筆者の知るかぎりではそれが本種の本邦日本海沿岸での分布の北限である。

Dictyota spathulata YAMADA

(Fig. 3) ヘラアミヂグサ 岡村，1936, p. 162; TAKAMATSU, 1939, p. 32, Pl. 7, Fig. 1. *Dictyota* sp. として，斎藤，1958, p. 90, Fig. 2.

産地： 百川（斎藤，8月，1958；7月，1959）

前報 (l. c.) には標本が未熟のため種の決定を保留して記載と図を示

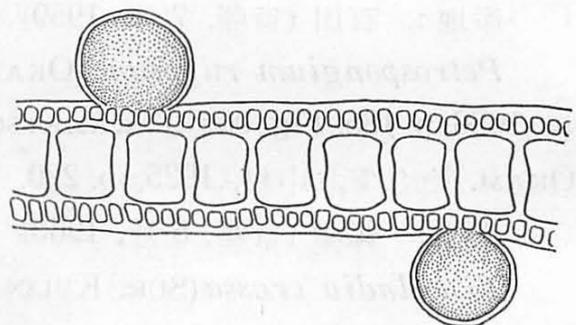


Fig. 3. *Dictyota spathulata* YAMADA, 未熟の四分胞子嚢を持つ体の中部の横断，×33

しておいたが、その図から山田幸男先生は本種ではないかと思われるとのお考えを筆者に洩らされた。ところが翌1959年7月29日に四分孢子嚢を持つ個体が多数得られたので、山田先生の同定を願ったところ本種であろうとのお教えをいただいた。

Rhodochorton robusium (BÖRG.) NAKAMURA

NAKAMURA, 1941, p. 284, Figs. 10-12.

産地：百川（齋藤，7月，1958）

老成して体の先端部を失なつた *Sargassum* sp. の集団のほとんど全部の体に着生し、その *Sargassum* sp. の群落全体が赤く見えるほどの多量に生じていた。細胞の径、長さなどは NAKAMURA (l. c.) の記述と一致するが、体長はそれよりかなり長大なものがあり、長いものは約 2.5 mm に達する。なおこの材料の中には少しずつではあるが *Rhodochorton* 属の他の 2 種がまじつていようだが、それらの種名については今後なお検討したい。

Chondrococcus hornemanni (MERT.) SCHUMITZ ホソバナミノハナ 中村, 1925, p. 205; 岡村, 1936, p. 487, Fig. 227; 東, 1936, p. 6; TAKAMATSU, 1939, p. 51; 大島, 1950, p. 80, Fig. 71.

産地：能生（中村, l. c.）, 百川（齋藤, 8月, 1958; 7月, 1959）, 筒石（齋藤, 7月, 1958）

前報（齋藤, 1956）には *Ch. japonicus* (HARV.) OKAM. ナミノハナを文献にもとずいて掲載したがまだ採集することができない。一方ホソバナミノハナは夏季能生附近にごく普通に見られる。

Gloiosiphonia capillaris (HUDS.) CARM. イトフノリ 中村, 1925, p. 207; 岡村, 1936, p. 558, Fig. 262; 東, 1936, p. 5; TAKAMATSU, 1939, p. 56, Pl. 10, Fig. 3; 大島, 1950, p. 98, Fig. 82.

産地：能生（中村, l. c.）, 百川, 海浜に打ち揚げ（齋藤, 4月, 1956）

Plocamium telfairiae HARV. ユカリ 中村, 1925, p. 212; 岡村, 1936, p. 613, Fig. 290; 東, 1936, p. 8; 大島, 1950, p. 106, Fig. 90.

産地：能生（阿曾, 3月, 1915）

検し得た標本は阿曾文雄氏採集の1個体のみ、しかも一部破損したものであるが、小枝の性状は明らかに本種の特徴を示している。

Rhodymenia intricata (OKAM.) OKAM. マサゴシバリ 岡村, 1936, p. 677; 東, 1936, p. 7; TAKAMATSU, 1939, p. 66; 大島, 1950, p. 116, Fig. 99;

斎藤, 1956, p. 104.

産地: 能生 (斎藤, 8月, 1958)

前報 (l. c.) には岡村 (l. c.) にもとずいて本種を掲載したが, その後未熟体ではあるが相当豊富に繁茂しているのを確認することができた。

Antithamnion nipponicum YAMADA et INAGAKI フタツガサネ 岡村, 1936, p. 706, Fig. 336; TAKAMATSU, 1939, p. 68.

産地: 能生 (斎藤, 6月, 1957)

Sargassum sp. の根部に着生する数個体を採集した。いずれも体長 1 cm 以下の貧弱なものであるが, 本種の特徴を明らかに示し, 精子器をつけているものもある。筆者の知るかぎりでは, 本種は今日まで本邦日本海沿岸では羽前吹浦 (ふくら, TAKAMATSU, l. c.) 以北に分布することが知られていたものである。

Benzaitenia yenoshimensis YENDO ベンテンモ 岡村, 1936, p. 806, Fig. 387; 東, 1936, p. 9; 大島, 1950, p. 138, Fig. 115.

産地: 能生 (斎藤, 7月, 1960)

Summary

An annotated list of fourteen species of marine algae from Nou, in Echigo, and vicinity on the Japan Sea coast of Central Honshû is here presented as the second supplement of the writer's previous list (1956). These species were all studied with the specimens collected by the writer himself except *Plocamium telfairiae* which was listed here on the basis of a single specimen collected by Mr. Fumio ASO in 1915.

文 献

東道太郎 (1936): 日本海 (本州沿岸) 産海藻目録. 水産研究誌, 31 (5); 290-298 (別刷では 1-9). INAGAKI, K. (1958): A Systematic Study of the Order Chordariales from Japan and its Vicinity. Sci. Pap. Inst. Algol. Res., Fac. Sci., Hokk. Univ., 4 (2); 87-197. 中村正雄 (1925): 新潟県天産誌. 新潟. NAKAMURA, Y. (1941): The Species of Rhodochorton from Japan I. Sci. Pap. Inst. Algol. Res., Fac. Sci., Hokk. Imp. Univ., 2 (2); 273-291. 大島勝太郎 (1950): 富山湾海藻誌. 東京. 岡村金太郎 (1936): 日本海藻誌. 東京. 斎藤謙 (1956): 越後能生及び附近沿岸産海藻目録. 北大水産彙報, 7 (2); 96-108. ———— (1958): 越後能生及び近傍の海藻ノート (1). 本誌, 6 (3); 88-93. TAKAMATSU, M. (1939): Marine Algae from the Coast of Japan Sea in Northeastern Honshû, Japan. Saito Ho-on Kai Mus. Bull., No. 17, Bot. No. 6; 21-33.